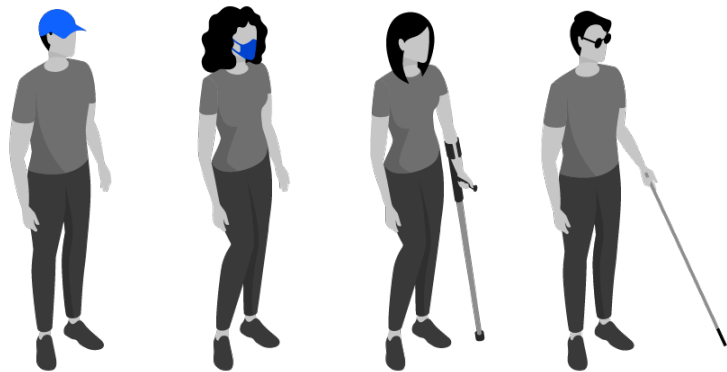


障がい者向けインターンシップ・プログラム

Access Blue Program 2022

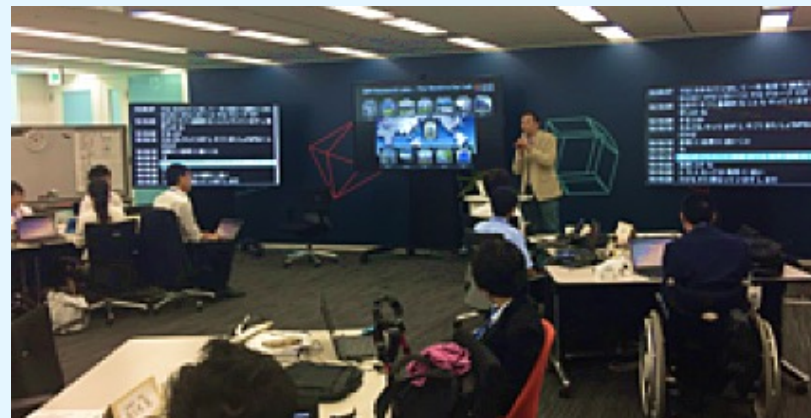
ニューノーマルの新しい働き方を体験しながら、
様々なビジネス・ITスキルを学べ、自分のキャリア形
成についてじっくりと考察する機会を得られます。



日本IBMでは、次世代の障がい者の支援策として、働きながらITやビジネスの実践的なスキルを身につけられるインターンシップ、**Access Blue Program** (以下、「Access Blue」) を実施しています。

Access Blue は、社会人に求められるビジネスマナー、コミュニケーションスキル、基礎的なプログラミング知識のほか、クラウドやAI、量子コンピューターといった最新のテクノロジーに触れられる日本では珍しい長期のプログラムです。

多様な人材がチャレンジできるように、インターンシップ期間中は、参加者の障害特性に応じた配慮や情報保障も提供されます。



2019年以前のレクチャーおよびデザイン・シンキングのセッション実施の様子。
新型コロナウイルスの感染状況により、内容は変更になる可能性があります。

2014年のパイロット実施から8年間の間に、延べ205名の身体・精神・発達などさまざまな障害のある若者が参加しました。個人スキルに加え、グループ活動とプロジェクトを通じてチームワークやリーダーシップ、プロフェッショナルとしての行動原則を学ぶことで、その後の学業生活や就職活動に役立てています。

新型コロナウイルスの感染が拡大した2020年以降は、ITツールをフル活用した完全オンライン・インターンシップとなりましたが、例年同様の充実したカリキュラムを実施しました（参考記事：[Mugendai 『障がいがある学生の可能性を広げるインターンシップ』](#)）。

オンラインになったことで、首都圏以外の学生もより参加しやすくなり、年々そうした参加者が増えています。2022年プログラムも基本的にオンラインで実施の予定です。

またIBMは、障害のある社員の活躍モデルを業界・業種を越えてお客様企業とともに作り上げることを目指す、[一般社団法人企業アクセシビリティ・コンソーシアム](#)（通称ACE）という活動も行っています。



Access Blueのカリキュラムでは、このACEで開催している夏のインターンシップの学生との合同セッションなど、より幅広い体験を積んでもらう場も設けており、参加者が就労に向けてより具体的なビジョンや就職観を形成する支援をします。



学生の皆さんへ

IT企業のインターンシップと聞くと、理工系学生向けの難しいカリキュラムと思われるかもしれませんが、

Access Blueの参加者の半数以上は文系の学生です。

IBMにもコンサルタントや営業など多様な職種があり、様々なバックグラウンドの社員が活躍しています。

Access Blueの修了生の多くも、プログラムでの経験を踏まえ、IBMを含むIT企業の専門職に就職していきました。

勿論、プログラミングを含む開発スキルを高めたい、ITプロジェクトの実行能力を磨きたいといった経験者には、さらに実践的なカリキュラムを用意していますので、プラスアルファのチャレンジも可能です。

自分の職業適性がよくわからない、自らの強みや障害特性をより深く理解したい、新しい知識や経験を得ることで選択肢を増やしたいといったニーズには、大学の専攻に関係なく当プログラムを通じ就業体験にチャレンジいただけます。カリキュラムの中では、様々な職種で活躍する現役のIBM社員から業務紹介やアドバイスなどを得ることができます。

また、自分と同じ障害のある先輩社員から、企業で能力を発揮するために日々どのような工夫や努力を行っているのか、直接話を聴いて学んでいただける貴重な機会となります。

カリキュラムの内容は、最新のビジネス・技術動向などを踏まえ、毎年更新しています。

個別のスキル・トピックに加えて、ユーザー体験を起点として有効なソリューションを導き出すビジネス手法のデザイン・シンキングや、日常使用する製品やサービスのサプライ・チェーンから業界全体を俯瞰的に理解する分析アプローチ、アンコンシャス・バイアスの存在を理解した上で適切な意思決定を行うためのマインドづくりなど、ビジネス全般にわたって有用な基盤となる知識を、ワークショップ形式で学習します。

また、複数回行われるキャリア・デザイン・ワークショップを通じて、今後のAI社会で必要となる職業能力や価値創造について、考察を深めます。

Access Blueの包括的なカリキュラムに主体的に取り組めば、総合的に就労に向けた準備を進めることができます。

Access Blueの3つの特徴

- 学業、就職活動との両立を可能とする在宅勤務（テレワーク）を活用した柔軟なプログラム
- ビジネス基礎から最新テクノロジーまで幅広いトピックを学習できるカリキュラム
- 長期のプログラムでじっくり学び、体験し、自己理解を深めることで、企業で働く自信が身につく

ビジネス・カリキュラム

- コミュニケーション、コラボレーション、リーダーシップ・スキルの習得
- 様々な課題分析、ソリューション構築の方法論の演習
- 仮想提案プロジェクトを通じたお客様価値創造の体験
- 実際の業務部門における就業体験（OJT）

ITカリキュラム

- プログラミング、Web開発などの基礎スキル習得
- クラウドやAI、データサイエンスに関する基礎知識学習と使用体験
- 技術理事をはじめとする最先端の技術者による特別講義
- チームでのアプリ開発プロジェクト

参加者の声

— Access Blueはあなたにとって、どんなプログラムでしたか？

「人生を変えるインターンシップ」
(人間総合科学研究科。体幹機能障害)

参加前と参加後では、見える世界が変わることをお伝えしたい(法学部。聴覚障害)

ひと言で表すと、「なんでもチャレンジできる実験場」でした。障害特性に対し、働けるやり方(自分なりの工夫の仕方、必要な配慮とその説明の仕方など)を探る実験の場としての意味合いが強かったです(文学部。発達障害)

最先端のIT知識と、高度な就業経験を積める、最高のインターンシップ(工学部。車椅子)

失敗を許された環境でできる、実践的な訓練の場で、新人研修と遜色ない内容を長い期間をかけて学びながらできるということに意義を感じました(教養学部。発達障害)

多様な障害、経験の異なる人たちの交流ができ、働き方、及び自己を見つめ直す貴重な機会(工学部。発達障害)

「社会人への滑走路」でした。大学等のアルバイトと決定的に違った点としては、フルタイムに近い時間で働くことが起こるか、というシミュレーションとして、様々なことをやってみることができた(文学部。車椅子)

本当に「人生のリスタート」と言って過言ではないほどの機会だった(政治経済学部。発達障害)

7ヶ月間が人生で一番短く感じました。毎日パソコンに向かうのが楽しみでした(学芸学部。精神障害)

コロナ禍での働き方を間近で体験できたことは自分にとって大きな財産です(法学部。視覚障害)

参加しない理由がないように感じます。大変なことや辛いこと、失敗してしまうこともたくさんありましたが、その中で得られるものはリアルな就業体験だからこそだと感じております(経済学部。視覚障害)